

# はじめりと、 それから。

DecoBoco (デコボコ)  
中尾春子さん・勇哉さん



長野信用金庫  
地域みらい応援部  
小日向絢子



「足に合う靴をつくりたい」という思いで、2017年に長野市田町に靴の修理店〈DecoBoco〉をオープンさせた中尾春子さんと勇哉さん。「地域みらい応援部」の小日向絢子さんとの関わり、これまでのことを振り返りました。

グーパンプスをつくるプロジェクトも、小日向さんが提案してくれましたよね。

小日向 プロジェクトが成功して、自分ごとのようにうれしかったです。私の足をサンブルに靴をつくってくださったりもして。そのうえ、私がおふたりの担当を引き継ぐことになって、最後にオリジナルのパンプスをプレゼントしてくださったことは、大切な思い出です。

小日向 『創業カレッジ』では財務やSNSの活用などの講座にもご参加いただき、開業後は体験談を語る講師としてもご協力いただきました。ありがとうございます。これまでを振り返ってみていかがですか？

春子 2週間に1回ほど小日向さんとお会いする機会があったので、「次来的时候までには、あれをやっておかないとね」と背中を押されて、事業をよりよく進められたのかなと思います。

勇哉 そうですね。正直、僕らみたいな小規模事業者にこんなに親身になってくださった、申し訳ないきもちもありました。それでも常に僕たちの事業のことを聞いてくださって、必要な支援をいつも考えてくださいましたよね。小さな事業が個性豊かにあることを本気で応援するという熱意に、地域に特化した信金さんの人柄を感じました。

春子 クラウドファンディングで、オー  
勇哉 それはよかったです。僕たちは、本業があつて、副業的にお店を続けてきました。振り返ると、好きな靴のことを、好きな想いのまま続けられるいいバランスを得られたかなと思っています。都内にいると、家賃もかかるし、そういう仕事の仕方は難しいのかなと思いますが、長野ならできると感じています。好きな仕事をして生活を支えることも大切ですし、好きを糧に生活を楽しんでいくこともできる。そんな心もちで、これからも足に合う靴を届け続けたいと思っています。



2012年 前年の東日本大震災をきっかけに、勇哉さんが東京から小川村へ移住。横浜の病院で作業療法士をしていた春子さんが、週末に長野へ遊びにくるようになる

2014年 神城断層地震をきっかけに、小川村のゲストハウス兼居住が半壊。休業を余儀なくされ、横浜の靴修理会社へ就職

2015年 長野の店舗へ異動となる

2016年 春子さんと勇哉さんが結婚。春子さんはフットケアトレーナーの資格を取得

2017年 〈DecoBoco〉オープン

足と靴の修理店 〈DecoBoco〉

〒380-0815 長野県長野市田町 2439  
decoboco-shoes.com





## 永岡 祐二

イタリアンレストラン & パティスリー  
〈ambrosia〉 オーナーシェフ

善光寺の北、箱清水の閑静な路地裏で2019年1月にオープンした〈ambrosia (アンプロジア)〉は、ミラノ、東京、長野でパティシエやイタリアンシェフの経験を積んできた永岡祐二さんと、妻でありパティシエの佳奈さんが営むお店です。彩り豊かなスイーツ、信州の有機野菜や漁港直送の鮮魚などを使ったシンプルながら繊細な逸品が人気。完全予約制として静かな食のひとときを届けています。スイーツのテイクアウトもあり。

## 永坂 麻希子

ドッグカフェ 〈Sunny Terrace〉 店主

善光寺仁王門から徒歩1分、3階建ての元歯科医院をリノベーションした1階で、2018年11月にオープンした〈Sunny Terrace〉。トリマー歴15年以上で犬の栄養学も学んできた永坂麻希子さんのもとには、善光寺で犬の散歩ができる好条件もあり、幅広い世代の犬好きが集まっています。店内には永坂さんが厳選したドッグフードの販売も。さらには愛犬のためのフォトスポットもあり、気軽に立ち寄れる雰囲気が好評です。



## 長崎 晃

nw-creare 株式会社 代表取締役社長  
パールエトラットリア <ピュルンゴ> オーナーシェフ  
アパレルブランド <Inswirl> オーナー

「信州ジビエマイスター」の資格も持つ〈Piu'Lungo (ピュルンゴ)〉の長崎晃さんは、捕獲処分されてしまう鹿やイノシシの革を使ったアパレルブランド〈Inswirl (インスワール)〉としての第二創業を2019年秋からスタート。ブランド立ち上げ前に実施したクラウドファンディングでは、目標金額の約2倍の資金調達を達成。2020年3月には鶴賀田町に実店舗をオープンし、衣服や皮革製品などのアイテムをセレクト。



# OTHER STORY

長野で夢を叶えた人たちの物語は、  
これからも続いていく。  
いろんな喜び、思い出を紡ぎながら。



## 岩田 俊介

トラットリア〈Divertente〉  
オーナーシェフ

ホテルシェフを歴任した後、2019年6月に横浜町でトラットリア〈Divertente（ディベルテンテ）〉をオープンさせた岩田俊介さん。信州の食材をふんだんに使ったパスタや石窯ピザをはじめ、厳選したワインに合わせたアラカルトやドルチェまで、すべて手作りでもてなす料理のバラエティが人気。「どんな人でも気軽に楽しめるように」と各席の距離は広めに保たれ、車椅子やベビーカーでも訪れやすいお店として好評を博しています。

## 小林 恵梨子

トレーラーハウスのスイーツ工房〈TEMO.jp〉  
オーナー

2018年6月に須坂市穀町でトレーラーハウスの洋菓子店〈TEMO.jp〉をオープンさせた小林恵梨子さん。信州のフルーツのおいしさに惹かれて、地域の農家さんとの関わりを大切にしたいスイーツ作りに思いをよせ、自ら農園へ足を運ぶこともあります。また、かわいい動物モチーフのカップケーキやデコレーションアートケーキも人気を呼び、百貨店やイベントにも出店。素材や材料にこだわり、子どもが安心して食べられるスイーツを追求しています。



## 山田 大輔

和食カフェ〈POLKA DOT CAFE〉  
店主

2018年3月に鶴賀権堂町の築70年の古民家を改修してスタートした〈POLKA DOT CAFE〉。店主の山田大輔さんと幼馴染みの駒込憲秀さんが2Fで古着屋〈COMMA〉を営み、市内外から人が集まっています。山田さん手作りの特製かき氷やスイーツなどのカフェメニューも人気ですが、どんな世代の人でも親しみやすい和食定食は、日頃のおうちご飯をひとやすみしたい学生や子育て中の親御さんに支持され大好評です。



## 小木曾 信仁

ITエンジニアリング〈iTPlanning〉代表

金沢工業大学在学中にプログラミングと出会い、長野県内の大手IT開発会社を経て、プログラマーやエンジニアの経験を培ってきた小木曾信仁さん。システム開発の幅広い知識とスキルを生かして、プログラミング教室やパソコン教室の講師を務めています。2019年5月に〈iTPlanning〉を開業し、最先端のボール型ロボットを使ったプログラミング教育を推進し、子どもたちの思考や学習の過程を大切にしたい学びの機会を育んでいます。

## 田村 綾

ネイルスタジオ〈room #229〉代表

ネイリスト歴10年以上の経験を積んできた田村綾さんは、善光寺表参道沿いにプライベートサロン〈room #229（ルームナンバー229）〉をオープン。シンプルなネイルケアからアートネイル、メンズネイルまであらゆるニーズに応えるセンスが人気。完全予約制（即時予約も可）で子ども同伴も受付。22時まで営業しているので、仕事や子育てで忙しい方でも、日々の合間のネイルケアが楽しめて気分転換できるのも人気の理由となっています。



## 岸田 陽一

フランス料理店〈渋温泉食堂 gonki〉  
オーナーシェフ

フランスの調理学校やアルザス地方中心の三つ星レストラン等での修業、大阪・北浜の有名ビストロ〈ラ・トオルトゥーガ〉や肉専門店での経験、軽井沢の〈ユカワタン〉のスーパーシェフとしてのウェディングメニュー開発など、幅広い知見を有する岸田陽一さん。2020年1月にオープンさせた〈gonki〉では、アットホームな空間とシックな空間をつくり「あたたかなフレンチ」で至福のひとつを届けています。



# 小日向 絢子



人の暮らしに、耳を傾けて伴走する。  
しんきんだからできる地域との関わりを、  
私は続けていきたい。

「生まれ育った長野で、誰かの力になれる仕事がしたい」。大学生だった私が将来を考えたときに思ったことです。きつと、どんな職種でもそれは叶えられると感じていましたが、インターンシップでしんきんの窓口業務を体験したときに、入庫を決める風景に出会いました。それは、しんきんのお客さまへの声のかけ方です。ただ効率よく業務を行うだけでなく、来店されたお客さま・訪問した先のお客さまそれぞれと対話している職員の姿に、この街に暮らす人の生活に寄り添おうとしている真心を感じたのです。どの役職や立場であろうとも、しんきんなら、長野で日々を営む人たちに寄り添うことができる。そう思い、入庫を決めました。しかし、夢と向き合う人たちと出会う度、自分にできることは何かと悩むこともありました。

創業者の事業に併走して、「こんな支援がありますか、いかがでしょうか」と、さまざまな支援を提案をしていた頃、提案し続けることにそこはかとなく迷っていた自分がいました。そんなとき、ある飲食店のオーナーさんのひと言に、はっとさせられたことがあります。「お客さまにとっては何気ない食事のメニュー。実は僕は必死に悩みながら考えていて。その結果がメニューのすべてなんです」。この言葉に、事業を支えたいという前のめりな思いを提案として届けるのではなく、大切なのは「耳を傾けること」なんだと気付かされました。

「新店（しんみせ）」が「老舗」になるように、あらゆる事業の将来を支えていくことで、芽生えた夢を叶えるお手伝いをしていきたい。携わる役割によっては、事業支援のほかマイホームや学資など生活に根ざした夢のサポートもできる。だから私はしんきんで、お客さまの声に耳を傾けることを大切にして、地域に貢献できる人になりたいと思っています。いつか、この街の「何でも頼れる相談役」になれば、何よりうれしいです。



小日向 絢子 Kohinata Ayako







1993年長野市生まれ。駒沢大学卒業後「長野で誰かの生活を支える仕事をしたい」と思い、2016年にしんきんに入庫。入庫当初から、地方創生に携わりたいという展望をもち、2017年からはご相談窓口と地域みらい応援部の業務を担うようになる。「地域に頼られるしんきん職員であり市民であること」を目指す。



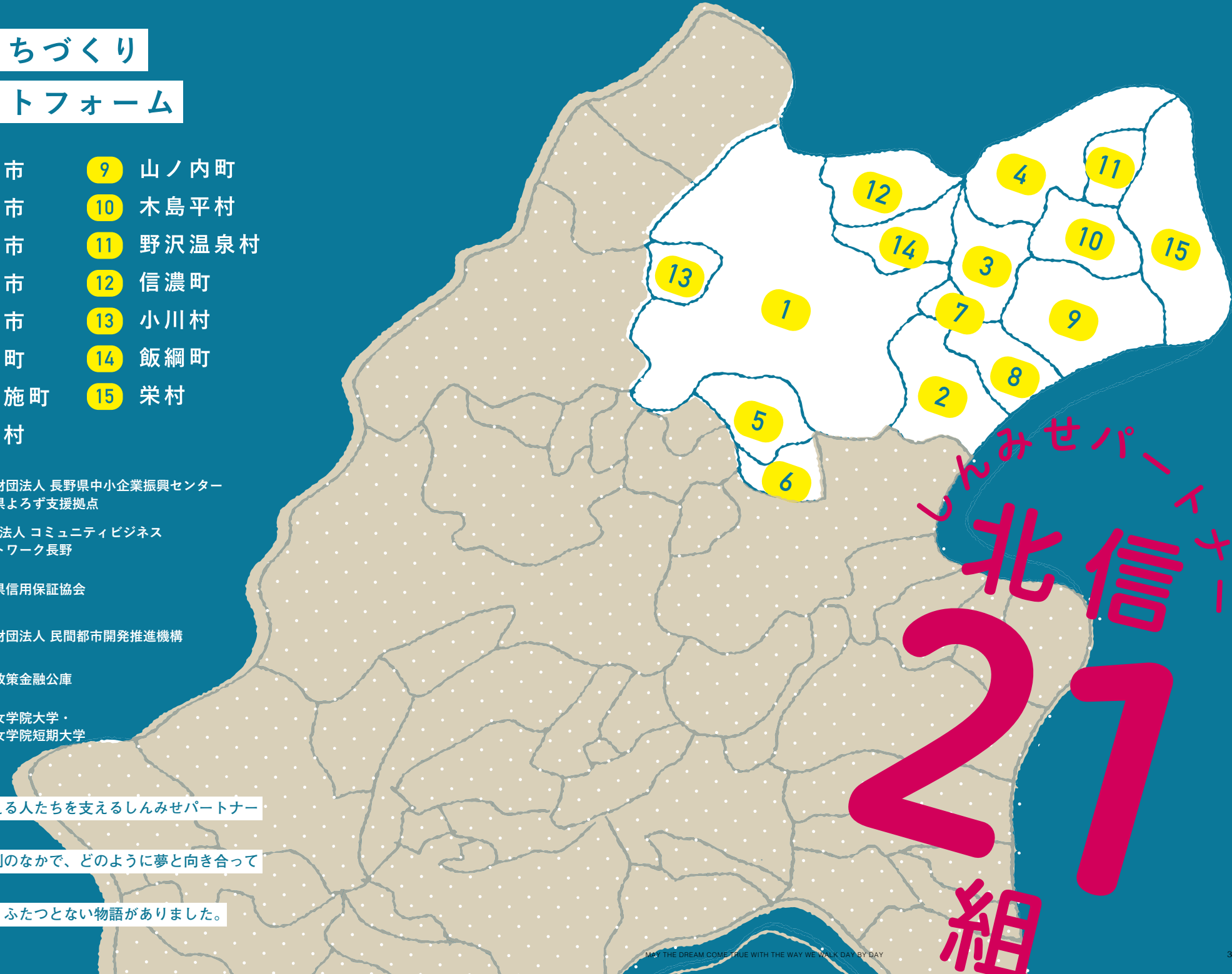
# 北信まちづくり

## プラットフォーム

- 1 長野市
- 2 須坂市
- 3 中野市
- 4 飯山市
- 5 千曲市
- 6 坂城町
- 7 小布施町
- 8 高山村
- 9 山ノ内町
- 10 木島平村
- 11 野沢温泉村
- 12 信濃町
- 13 小川村
- 14 飯綱町
- 15 栄村

-  公益財団法人 長野県中小企業振興センター  
長野県よろず支援拠点
-  NPO 法人 コミュニティビジネス  
ネットワーク長野
-  長野県信用保証協会
-  一般財団法人 民間都市開発推進機構
-  日本政策金融公庫
-  清泉女学院大学・  
清泉女学院短期大学

長野で夢を叶える人たちを支えるしんみせパートナー  
がいます。  
それぞれの役割のなかで、どのように夢と向き合っ  
ているのか。  
その想いにも、ふたつとない物語がありました。





### 風土や人。`当たり前、という特別を、未来へ。

なにげなく、`当たり前`に感じている風土や人の暮らしには、ひとつひとつに特別なストーリーがあって、それらが積み重なって10年後があると思うんです。だからこそ、土地の恵みや村の人たちの暮らしを享受した持続可能な資源や経済の循環を大切にしたいと考えています。

例えば、<sup>1</sup>村内倫子さんの事業は、養鶏を通じてひとつの循環を生んでいます。これは豊かな地域経済の見本ともいえます。次第に農業から小売業、さらには加工製造業へと発展したり、さまざまな事業へと展開したりする産業に併走していく私たちとしては、金融機関との連携による横断的な支援策を見直さなければなりません。

この事例のように、創業者の包括的なサポートを担えることを、純粹にうれしく思いますし、よりよい循環をつなく努力をしていきたいとあらためて熱意を抱きました。

<sup>1</sup>: p.12-15でご紹介している〈高山村の平飼い卵〉

鈴木 靖孝 Suzuki Yasutaka

高山村の創業者支援やクラウドファンディング補助金をはじめ、係長として村の商工観光行政を担う。「高山村に人生をかけて創業や移住を果たす人の力になりたい」と穏やかな人柄をにじませる



### 楽しく生きる・はたらくが、街になるように。

私はしんみせパートナーの取り組みとして、須坂市で創業された<sup>1</sup>TEMO・jp<sup>2</sup>さんと<sup>2</sup>へ一顧とり〜さんのアテンド訪問を2019年よりおこなってきました。これまで須坂市では、空き店舗を活用した創業への補助金などの支援はありましたが、こうして創業された方たちの事業の進展に併走しながら、事業への思いを傍らで聞ける機会をいただいたことで、事業を、始めるサポート、だけでなく、続けるサポートをあらためて大切にしたいと思うようになりました。

事業が長く続いて、いつまでもその人らしい働き方や生き方ができる。そんな人の営みが街に広がるのが、本当の意味での産業振興なのではないかと思っています。そのためにあらゆるサポートを探し出し、事業者さんにつなげる役割を、ひとつひとつ丁寧に紡いでいきたいです。

<sup>1</sup>: p.35で紹介している小林恵梨子さんの事業 <sup>2</sup>: p.8-11で紹介している宮崎友里さんの事業

清水 明日香 Shimizu Asuka

創業支援に熱い思いを寄せ、しんみせ応援プロジェクトのひとつ『創業カレッジ』を、須坂市特定創業支援等事業に認定申請する取り組みに携わった(2019年)

清泉女学院短期大学  
国際コミュニケーション科  
専任講師  
中島 琢郎さん



起業の魅力と必要性を多くの人に知ってほしい。

昔と比べて現代は、起業しやすい社会です。世界を眺めれば、起業してよい社会の実現に邁進する若者もいます。では、こうした起業の魅力や必要性を、学生たちにも認知してもらうためにはどうしたらいいのでしょうか。インターネットや新聞などの二次情報からでは、起業の醍醐味を実感することとは困難です。私は、起業家たちの熱量や世界観にふれることが重要ではないかと考えます。そのため、『しんみせ応援プロジェクト』を通して、本学の学生が起業家と将来の構想を練り、一緒に胸を膨らませた経験は大変有意義なものでした。

近年、起業のみならず、副業やフリーランスなど、組織に依存しない働き方の選択肢が増えています。自身が培ってきた経験や能力に拠って立つ生き方は、思わず心が躍るものです。学生のみならず、より多くの方に、こうした自助的な働き方を考える契機を提供し、支援できる存在でありたいと思います。

中島 琢郎 Nakajima Takuro

1977年長野県生まれ。大学卒業後、ベンチャーキャピタルにて投資育成業務に従事。2017年に清泉女学院短期大学に着任し、講師として教育 / 研究に関わる。主な研究分野は、ベンチャー企業を対象にした社会ネットワーク分析

清泉女学院大学  
人間学部 文化学科 講師  
川北 泰伸さん



学生と共有したい「自分たちが地域をつくる」という実感。

社会の仕組みや景気、人口動態の変化など、あらゆる問題が顕在化してきている今日。これからのよりよいまちづくりの鍵となるのは、社会の多様性を享受し、誰もが主体性をもってまちづくりに参画することではないかと考えています。そのためには行政だけでなく、民・学・金など背景の異なる専門機関が交わること。そして、複雑に重なる社会課題を解決するために、これからの公共性をお互いに見つめ直すことが重要です。その多様性のひとつとして、創業者の本音を聞いたり、金融の仕組みを学んだりすることを通して、自分たちならどんな仕組みや発想でまちづくりに寄与できるだろうか、学生自身が想像するきっかけを大切にしていきたいです。そして学びを深めていくなかで、さまざまな人との関わり合いを結んでいき、社会における自分の役割について、自分なりに発見していこうとする姿勢を育んでいきたいと考えています。

川北 泰伸 Kawakita Yasunobu

公共政策やまちづくりを専門に、フィールドワークや行政・企業との共同研究プロジェクトを通して、行政学の視点から政策形成や政策実施を研究。しんみせ創業カレッジにて「消費者や学生の意見を聞くグループワーク型講座」に学生と参加



### 夢を持ち続ける情熱を、支え続けたい。

日本政策金融公庫には、創業を考  
える方の相談が多く寄せられますので、  
いかに創業スタートの礎になれるかに  
尽力しています。どんな事業も、順風  
満帆で輝かしいストーリーばかりでは  
ありません。事業を続ける情熱を支え  
るために、私たちはいつも目の前の事  
業者の悩みや展望に耳を傾けることを  
大切にしています。逆風にさらされて  
も支え合える家族や従業員がいること、  
自己資金を地道に貯めてきた蓄積の過  
程など、情熱のある人には並々ならぬ  
努力があります。そんな方たちが事業  
を続け、街に活気を生み、そのうちに  
行列ができるほどの繁盛店になること  
もあります。傍らで事業が育っていく  
プロセスを見られることは、やはりう  
れしいですね。私たちは地域金融機関  
とも連携しながら、夢を抱く方の相談  
の窓口として、情熱を持ち続けられる  
環境づくりに努めていきたいです。

井上 和則 Inoue Kazunori

大阪や静岡、日本政策金融公庫本店などを経て2018年に長野支店事業統轄に就任。2020年春には感染症拡大の影響による融資申込件数が多いときに通常の約15倍になるも、逆風のなかで事業継続に熱意をもつ事業者を支援しようと日夜奮闘



### 豊かな個性をいかして創造するビジネスが、未来を変える。

自分を信じ続けることは、そう簡単  
ではありません。1年のはじめに10  
の目標を掲げて、いくつかは志な  
かで・・・ということ、ありますよね。  
だから、事業者の方々が、夢への志  
を灯し続けるために必要なのは、社員  
や周りの人の力です。その力をもらい  
ながらも、事業推進に必要なすべての  
要素を持ち合わせていることは、そう  
多くはありません。だからこそ、企  
業を客観視できる私たちのような存在  
が、個性や特異性をいかに生かすよう、人  
事考課や経営戦略をいっしょに考える  
ことが大切なのです。  
過去は変えられませんが、未来は変  
えられます。そのために数字を見て、  
人の力を継ぎ合わせるお手伝いに、こ  
の仕事の魅力を感じています。情熱を  
持つ事業者に寄り添い、ビジョンの感  
覚的な部分を、言語化・数値化し事業  
計画を見える化していく。そんな感性  
と知性をもって創造するビジネスが、  
社会をよりよくすると信じています。

内山 裕章 Uchiyama Hiroaki

「中小企業の健全な発展が地域経済を活性化し、豊かな地域社会を築く」と考え、企業の経営およびコンサルティングに携わる。地域のなかで、高い志をもつ経営者がビジネスを創造するきっかけをつくろうと、(NPO法人 CBN 長野)も運営し、若者の創業支援や地域活性化支援も行う





困難なときこそ力になりたい。すばらしい明日を夢にかえて。

夢、家族、人生。  
ふたつとない一生のひとときを、幸せに過ごしてもらいたい。振り返れば、そんな思いで仕事をしてきたことが、とにかく楽しかったですね。いい人生の選択に決まった方程式はなく、ただひとつ困ったときこそ力になりたい」と心に決めて、この仕事をしてきました。すばらしい明日が必ずやってくるかと信じて、お客さまに併走し続けてきた日々を幸せに感じます。  
「地域みらい応援部」を創設した背景にも、同じような熱意をもつ職員と地域の関わり合いを深めたいという思いがありました。私たちはいち金庫職員でありながら、いち生活者でもあり、みな家族がありますからね。仕事を通して北信地区の豊かな社会づくりに寄り、ひとりでも多くの子どもたちが夢を描ける街にするために、これから夢へと進む人とともに、明日を夢見ていきたいと胸に抱いています。

市川 公一 Ichikawa Koichi

千曲市出身。1981年に長野信用金庫へ入庫。2015年に理事長に就任し、地域の稼ぐ力を高めることが使命と考え、2018年に「地域みらい応援部」を創設。事業者の熱意を汲み取る「Face to Face」を大切に、豊かな地域社会づくりへの貢献に努めている



人生をかけた創業者の思いに、まっすぐ。

「いつか、融資の仕事を通じて、地元長野に貢献したい」。そんな思いを抱いてしんきんに入庫した私は、人生をかけて事業を展開する人たちの伴走者であることを誇りに思っています。長野市庶民信用組合を起源とする当金庫の根幹は、地域の中小・小規模事業者への融資にあり、地域の経済発展に尽力すること。その歴史を積み上げていくことが何よりのやりがいです。  
地域に向き合う一方で、ネットマーケティングや金融のグローバル化、事業承継の転換期など、社会環境の大きな変化に備えて、専門機関との連携を図ることがより重要です。  
企業のライフステージに合わせたあらゆる提案やそこで働く方々とのつながりをつくることを通じて企業に寄り添い、豊かな地域を編む一糸になれたらしんきんマン冥利に尽きますね。

三井 康平 Mitsui Kohei

長野市出身。「地元貢献したい」と思い、大学卒業後にしんきんに入庫。主に、地元企業への融資支援、本業支援業務に携わるなか（一顧とりのり）の創業サポートも担当した



長野で夢を叶える。  
どんな困難なときも、明日を夢見て。

# 長野で 夢を 叶える

**Design/Edit/Photo**  
SONSLIKE

**Producer**  
藤原 正賢（株式会社BAZUKURI）

**Publisher**  
長野信用金庫

**Printed**  
松澤印刷株式会社



「長野で夢を叶える」に寄せて  
編集 小林隆史

「夢を叶える」という言葉に、みなさんはどんなことを思い浮かべるでしょうか。

好きで続けてきたこと、気がついたら今ここに來ていたこと、辿り着こうと懸命になること…色々な姿が思い浮かぶかと思えます。

僕は今回のインタビューの前、どことなく、夢を登山のように捉えていたかもしれません。あの険しい道のりを越えたら、そこには最高の景色が待っている、というような。でも本当は、私たちの毎日がすべて、夢の始まりなんだと、今という時間をひたむきに歩む人たちの声色に気づかされました。夢を歩む人、夢を歩む人を応援する人たちの声に。

次はどこへ向かおうと力むことなんかしなくても、人との出会いが、今へと導いてくれていることをただ享受して、今を大切に。それが、夢になるのだと知りました。

話は変わって、夢という言葉に、もうひとつ思い浮かべるのは、『SMOKE』という映画です。とある街角のタバコ屋で偶然に出会う人たちが、人生の起点をともに生きて別れていく物語。今という瞬間は、はかなくも過ぎ去っていくけれど、尊いものであり、すでに出会えたすべての人との出会いは偶然ではない、という話なんです。なんだか、こうして夢をテーマに一冊の冊子に携わらせていただけたことは、きっと次の夢を始めていることでもあるのだと思います。こうして手にとって読んでくださった方にとっても、新たな夢の始まりになったらこの上ないよこびです。こんな機会を下さった皆さんには本当に感謝いたします。ありがとうございます。

そして「長野で暮らしを歩む」というタイトルで、住まいや仕事、マイカーのこともいい、あらゆる人の小さな幸せが実る物語を、いつの日か、またここで出会ったすべての人たちと記録してみたいと、新たな夢を抱いているのでした。